

「ミドリシジミの標本(1)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

私は理科の教師なのに、虫があまり好きでない。子どもの頃は好きだったのだが、今は昆虫の単元も、どちらかと言えば苦手だ。チョウやガもあまり好きでないが、いくつか魅力的な種類もいる。



たとえば、この写真の種類。「ヒメツバメエダシャク(姫燕枝尺)」という。チョウのように見えるが、実はガ(シャクガ)の一種で、尺取虫が成虫になったものだ。夏の高原に多く、実に美しい。チョウの間では、「ミドリシジミ」というものを一度見てみたいと思っていた。早稲田大学の露木和男先生が、すばらしい写真を見せてくれたからだ。



私のクラスに昆虫—特にチョウが好きで、ミドリシジミの話をして、「あ、ぼく持って

ますよ」と、翌日標本を持ってきてくれた。この男子は、昆虫観察の専門サークルに所属していて、たびたび甲信地方に観察・採集巡検に出かけているのだ。



見れば、なかなかすばらしい標本だ。オオムラサキを中心に、ミドリシジミも2個体入っている。展翅もしっかりしていて、ラベリングも完璧だ。「茅ヶ岳の近くで採集しました」と話していた。私はすっかり感心してしまい、「何日か借りていいですか?」と聞くと、「いや、これ全部先生にあげます」と事もなげに言う。こんなに立派な標本をもらうわけにはいかないので、数日間借りて観察させてもらうことにした。



これが「ミドリシジミ」の標本である。展翅した大きさは、左右が4cm程度の小型のチョウである。名の通り、鮮やかな金属光沢を持つ、緑色の翅を持つ。ミドリシジミは何種類か知られていて、本州には「ミドリシジミ」「メスアカミドリシジミ」「アイノミドリシジミ」などが多いが、私はチョウに詳しくなく、これが何の種類か、同定できなかった。